

公表

## 第2回 事業所における自己評価総括表

○事業所名	HIROキッズぐるーあっぷ (児童発達支援)			
○保護者評価実施期間	令和8年2月5日		～	令和8年3月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	9名
○従業者評価実施期間	令和8年2月5日		～	令和8年3月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月28日			

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援ではNCプログラムを中心に療育しています。集団療育ですが、プログラムを個別療育に近い形で提供しています。家庭的な雰囲気なので、利用者(子どもさん)はリラックスできる場所として過ごしています。	ぐるーあっぷでは視覚構造化、利用者(子どもさん)の発達状況に合わせた療育をしています。指導、指示は楽しさの中に組み込むように工夫しています。指導、指示と楽しさが両立できるよう努めています。	NCプログラムが効果的に使用できるよう、絵カード、教材づくりを並行して行っています。
2	楽しく過ごすことができる場所です。その中に明確なルールを定めています。	スタッフ、利用者(子どもさん)がどちらも明確に分かるようにルールを定めています。時々、利用者(子どもさん)が切り替え等が難しいこともありますが、コミュニケーションを取りながら進めています。	ルールについてはスタッフの共通理解を大切にして支援の方向性を統一するように努めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援、障がい福祉サービスも働く人の募集は難しくなっていて、ぐるーあっぷでも苦戦しています。	ぐるーあっぷ児童発達支援では視覚構造化、療育に力を入れています。その分教材の準備、プログラムの立案は難しさも大変さもあります。	大変さの中に、利用者(子どもさん)がプログラムの実施によって言葉が増えて行ったり、行動が落ち着いてきたりするのを見ると、大きなやりがいを感じます。もちろん、保護者様も喜んで下さいます。職員が少ない中、保育士2人と作業療法士が奮闘しています。お陰様で素晴らしい支援が展開されています。このことを知ってもらってやる気ある職員を増やし、充実させていきたいと思えます。ハローワーク、関係者のご縁でぐるーあっぷと一緒に働くスタッフを見つけていきます。業務の流れ、方向性が徐々に確立しつつあります。
2	HIROキッズとの連携を強化していきます。	HIROキッズは開所して令和8年2月で丸10年になりました。3月から11年目に入ります。利用者(子どもさん)が楽しく過ごす場所として皆様からご理解をいただいています。ぐるーあっぷでは視覚構造化、支援の方向性をスタッフで共有することを大切にして、HIROキッズと連携していきます。	日頃の業務は多忙ですが、ミーティングの時間を作って、スタッフ間のコミュニケーション作りに努めます。